

# 令和3年度あま市歯と口腔保健推進協議会 会議録

## 1 開催方法

書面会議

## 2 報告事項

令和2年度あま市歯と口腔保健推進協議会会議録要旨について

## 3 議題

- (1) あま市歯科保健事業について
- (2) 歯と口腔保健計画について

## 記

### 報告事項

令和2年度あま市歯と口腔保健推進協議会会議録要旨について【参考資料1】

### 議題

- (1) あま市歯科保健事業について【資料1】【資料2】

(渡辺委員)

【資料1】7番の3歳児健康診査について、歯科健診の内容の詳細を表記してほしい。(特に不正咬合について)

(事務局)

3歳児健康診査での歯科診察については、歯科医師が愛知県母子健康診査マニュアルに基づきう蝕、歯列・咬合、口腔軟組織、歯の形態・歯数異常等の確認を行っています。

(渡辺委員)

【資料1】10番の歯と口腔の健康づくり教室はどんな教室か。学校教育課で実施の内容も表記してほしい。参加人数など実績も記載してほしい。

(事務局)

【資料1】10番の歯と口腔の健康づくり教室は令和2年度まで美和東小学校で実施していましたが、今年度からは歯科医師会で実施されているバトンタッチ運動の実施校になり、そちらの方で行っているため、今年度の歯と口腔の健康づくり教室の実施はありませんでした。

学校等他課で実施されているものにつきましては、21計画【資料3】にあ

げてあります。記載のないものについては再度確認し、表記します。

(渡辺委員)

【資料1】14番のバウンス教室はどんな教室か。

(事務局)

バウンス教室は40歳代までの方を対象に行っている運動と健康講話の教室で6回コースの教室になります。

(渡辺委員)

【資料1】18番の笑って元気スクールはどんな事業か。

(事務局)

笑って元気スクールはあま市民病院、保険医療課、高齢福祉課、健康推進課が一体となり、地域のサロンへ出向き、介護予防を行っています。65歳以上の方が参加しています。

(渡辺委員)

【資料1】23番 10020・9020・8020表彰

9020・8020の人数の説明はあるが、10020の人数も表記してほしい。

(事務局)

令和3年度は10020の該当者はいませんでした。

(加藤委員)

【資料1】9番の令和2年度は集団での実施が中止。令和3年度は新しい生活様式に応じた方法で実施を考えるとあるが、資料配布での啓発となったことが残念です。コロナ禍などでウェブ活用して平常時並みの教室が実施できるのではないかと思います。

(事務局)

保育園・幼稚園歯みがき教室は、令和2年度は集団での実施を中止し、資料配布での啓発となったため実績が0になっています。今年度は新しい生活様式に応じた方法で実施できるよう事前に園と話し合いをして開催しました。

(加藤委員)

【資料1】14番の新規のバウンス教室での歯科講話に期待したい。

【資料2】9～11番の実施回数が随時に変更されているが、要望に合わせて実施される園、学校また実施されない園、学校があるのは不公平感が生まれるのではないかと。

(事務局)

園、学校にはそれぞれの都合があり、例えば学校と学校歯科医師の連携のもとに行っている学校もあります。園、学校の実情に合わせて実施しています。

## 議題

(2) 歯と口腔保健計画について【資料3】【資料4】

(渡辺委員)

【資料4】6ページの間4「健口体操をしている」人がもう少し増えてほしい。

(事務局)

歯と口腔の健康管理として健口体操を行っている人が増えるよう、歯科医療機関等の関係機関と連携し周知啓発していきたいと思います。

(渡辺委員)

【資料4】8ページの間5「歯と口腔の健康と関連があることを知っているもの」の項目に「認知症」を加えてほしい。

(事務局)

歯と口腔の健康と認知症との関連についても、歯科医療機関等の関係機関と連携し周知啓発していきたいと思います。

(渡辺委員)

【資料4】12ページの「3歳児で不正咬合等が認められる者の割合」が、パーセントで表記されているが令和2年度から3年度でどのように変わったか人数でわかるように書いてほしい。

(事務局)

「3歳児で不正咬合等が認められる者の割合」は令和元年度は704人中100人、令和2年度は717人中87人でした。

(渡辺委員)

【資料4】12ページの新たに追加した項目「3歳児で不正咬合等が認められる者の割合」について追加理由が方針のところに示されているがわかりにくい

(事務局)

「不正咬合が食べる、話すなどの口腔機能の発達に悪影響を与える可能性があるため、良好な成長発育の実現を図れるよう、指標として設定する」に表記を変更します。

(加藤委員)

【資料4】5ページの「今の入れ歯で噛んで食べることができますか。」クロス集計で壮年期が最も割合が低くなっているのが気になります。報告終了後に原因究明と改善を願います。

(事務局)

壮年期の入れ歯使用の方は38人と母数が少なく、高齢期とそのまま比較することはできず、またアンケートは無記名式であるため、原因究明は困難です。

(加藤委員)

【資料4】クロス集計(ライフステージ別)の壮年期(40~64歳)は年齢幅が広いと思います。高齢期のように2つに分けてはどうですか？

(例)壮年期①40~49歳

壮年期②50~64歳

(事務局)

データの母数がさらに小さくなり、傾向がつかみにくくなるため、このままとします。

## その他

(渡辺委員)

【参考資料1】の1ページで梅屋委員より、コロナウイルス感染症対策の中、事業の遂行に課題が多くなっていて、適切な対策の下で事業を再構築することが必要だと意見があがっているが、市民病院においてはどうか教えていただきたい。

(梅屋委員)

質問の意図は、従来の事業の縮小や感染対策による対応だけでなく、withおよびafterコロナを意識した事業計画の再構築を提言したものです。ご質問があったコロナ禍におけるあま市民病院の対応についていくつか述べます。

例年行っていた教室は、令和2年YouTube配信としました。対象年齢のインターネットの活用が限られており、十分な参加者を確保できませんでした。令和3年は、ヨシツヤの催事場をお借りして長谷川副会長と健康推進課と共同で行いました。

近年の最も大きな診療外の活動としてコロナワクチン接種事業があります。集団接種会場を設置し、定期的なオンライン検討会に参加することで市民病院の重要な役割の一部を果たすことができました。本検討会を中心に会議や研修会の多くが遠隔となりました。一方で対面の恩恵も実感され、今後は両者の長所を生かした会議や研修が求められます。

また、地域感染管理活動として、医療圏の福祉施設の感染管理指導を行いました。この活動は、来年度の診療報酬改定を先取りした活動と言えます。

診療においては、電話診察を通常外来およびコロナ外来で行っています。オンライン診療は after コロナに発展が期待される領域です。しかし、現状の患者さんの受診姿勢と対象患者の電子機器リタラシーからオンライン診療の需要はまだ限定的であると感じています。

(渡辺委員)

神田委員より介護事業、高齢者のフレイル予防の進捗状況はどのようになっているか質問されていたが、今年度はどうか教えていただきたい。

(事務局)

昨年度と同様に地域サロン参加者に対し、口腔機能向上に関する講話と健口体操を実施しました。また、民生委員の方のご協力をいただき、65歳以上の世帯に対し、健口体操の資料の配布も行い今年度の実績は10,968人でした。

(渡辺委員)

お薬手帳の持参について歯と口腔の健診で、「必ず」持参していただけるように啓発してほしい。

(事務局)

受診の際にはお薬手帳を持参していただけるよう引き続き啓発していきます。

(渡辺委員)

あま市の18歳未満の医療費の無料化について会より意見があった。

(井村委員)

これからも歯の大切さ、口腔ケアの必要性を広めてほしい。